

コミュニティ運用マニュアル

—第1章— 事業概要



このマニュアルは、支援者が事業を展開するための手引きです。
センター利用者・支援者のリテラシーを向上させることで、
さらに後ろへ続く利用者・支援者へ、
リテラシーアップのボタンをつないでいただくことを目指しています。
このマニュアルを、デジタルの未来を切り開いていくための
ひとつの道しるべとしてご活用いただけますと幸いです。

背景

東京デジタルファースト条例

行政手続の原則が抜本的に
デジタルへ転換

バーチャル都庁構想

あらゆる行政サービスの前提が
デジタルにシフト

これからは・・・

- ①行政情報をデジタルの力を使ってより幅広く伝達すること
- ②区民が必要な情報をいつでも・どこでも入手できる環境の整備
が必要

本事業の目的

**ICTを使える人と使えない人との間に生じる格差
(デジタルデバイド) を是正する**



事業内容

デジタル技術の活用によるコミュニティ活性化
ワークショップによる課題の洗い出し/
スマートフォン教室の実施/SNSコミュニティの運用



スマホ教室ってどんな事を
どうやってやれば良いの？
利用者がSNSでトラブルを
起こしたらどうしよう？



スマホ教室はこういう事を
やれば良いのか！
利用者がSNSを使う時は
ここに気を付けるのか！



事前にスマホ教室を見て、
何をするのか理解している。
利用者の反応を見て、
改善点が見えた。



センターからのお知らせを
効率的に発信できる。
利用者も反応してくれて、
楽しいコミュニティになった。

**支援者さまの不安・懸念・課題洗い出し
上記を踏まえた内容の策定・改善**

実践・振り返り・改善

こんな不安はありませんか？



このマニュアルでは、上記のようなお悩みを解決できるよう手順等をお示します！

step1

ワークショップ

課題の把握
目標・目的の共有

step2

スマホ教室

支援者のリテラシーアップ
利用者のスマホ体験

リーフレット・動画

広報・機運醸成

分析・振り返りを重ね、
デジタルデバイド是正へとつなげる

step3

SNSコミュニティ運用

デジタルを活用した
コミュニケーションの活性化

—第2章—
実施マニュアル

目的

- ・自治体職員や対象センター支援者を対象に現状把握を行なう
- ・事業の目的・ゴール姿の認識を合わせ、キックオフを行なう
- ・現状の課題を抽出し、この事業内で対応するか・持ち越しとするか決定する

準備：2週間～

場所

- ・リアル実施であれば、時間や場所を参加者へ案内
- ・オンライン実施であれば、使用するツールを決定し、実施用URLを共有

アンケート

- ・事前アンケートを行ない、利用者のニーズや支援者の課題観を吸い上げ

資料

- ・主催者が仮定で課題を設定し記載
- ・当日の進行表を想定時間と共に記載し、各セクションにかけるボリュームを事前に決定しておく

準備

機材

- ・プロジェクター
- ・PC（画面投影・共有用）
- ・ビデオカメラ・三脚

人数

3名以上（主催者・ファシリテーター：1名）

実施：1日（90分）想定

流れ

- ① 主催者がプレゼン形式で事業の説明や現状の課題を説明
- ② ①の説明を受け、グループワークにて課題を抽出
- ③ ②の課題の共有、目標・ゴールの設定

事後：実施後1週間～

アンケート・分析

- ・目的の設定、準備、実施について、参加者へアンケートをとる
- ・アンケート結果から、各項目について分析し、全体へ共有

実績（令和3年度1月11日／オンライン）

内容

- ・事業目的の確認
- ・中村橋福祉ケアセンター・練馬区・東京都・受託業者による意見交換会
- ・SNS利用の課題抽出（利用者の持つ特性により予想されるトラブルについて、管理側のリテラシーについてなど）

所感

- ・プロジェクターを利用の際は、白い壁の有無の確認が必要。
- ・グループワークによる課題抽出→課題の確認→事業振り分けというアジェンダを用意していたが、実際は全体での課題確認がウエイトを占めた。
- ・支援者も同席することで、事業について捉え方の異なっていた点や、現場が抱える課題のすり合わせができた
- ・座席配置を各所ごとに固まらせず、意見交換をしやすい場にした結果、忌憚なく意見交換をすることができた

当日の様様



・座席の様子

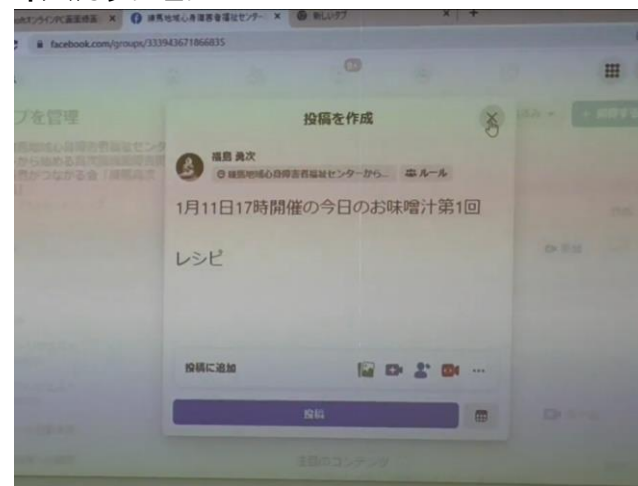


・本事業についての説明

1月11日当日のご意見

1月11日ご意見	当事者	支援者	備考
個別特性（年齢が若いなど）を踏まえると、最初からSNSは飛んでしまっている 当事者同士のつながりは持続させたため、ツールがSNSでいいのか			
段階分け（当事者がスマホを持つ理由に納得するためのシミュレーション段階→もうすぐでLINEをやっている人）で進べるようになってほしいのか			
センターごとではなく、講座ごとの開催のほうが個別性に合うのでは			
職員にもスキルがない→当事者に合う講座を職員から提案			
1回利用に失敗したら修正できない人もいる→リスクや取り返しの説明をしっかり			
既存のSNSを使うならLINEなども活用できる（当事者がすでに家族など話している場合） 本人だけの判断ではなく、家族も巻き込めるリスク管理体制			
既婚アカウントがある場合、以前の知り合いなどほとんどもたちになりたくない場合も 提示板のようなコミュニティのイメージ、なにをしたか・どうありたいかからツールを選ぶ 見ていて面白くて、自分もやりたくなる（動画）			

・プロジェクターで投影しながら意見を追記し
ディスカッション



・Facebookの利用画面をプロジェクターで共有

実施に向けてのポイント

準備

- ・ビデオカメラ等の収録機材を用意し、会議の内容を録画しておく、後から発言を見直すことができるのでよい。
- ※オンライン実施であれば、Zoomのレコーディング機能等でも代用可

進行

- ・課題観やゴールイメージのすり合わせを目的として、急いで議論を進めずに、お互いの 立場や考え方をシェアする場にする。
- ・時間配分については、課題をヒアリングする時間を多めに取り、支援者の方から1つでも多くの課題を抽出できるようにする。
- ・実施1時間前に自治体担当者と最終のすり合わせを行う。
- ・支援者から出た意見については、その場でプロジェクターで投影したリストに随時記入し、都度整理する。

目的

- ・利用者へのデジタル面のサポートのための支援者のリテラシーアップ
- ・利用者向けスマホ教室の試行実施として、進行の確認
- ・本教室実施の過程においてセンターが抱える課題を確認し、教室の内容へ反映

準備：4週間～（資料作成…2週間、資料修正・実施内容決定等…2週間）

場所

- ・リアル実施であれば、時間や場所を参加者へ案内
- ・オンライン実施であれば、使用するツールを決定し、実施用URLを共有

資料

- ・利用者向けスマホ教室で利用する教材
- ・支援者向けのメディアリテラシーに関する教材

その他

- ・オンラインにて実施する場合は、事前に参加者が使用するスマホ端末及び、出力した教材を予めセンター宛てに配送（前日着想定）

準備

機材

- ・プロジェクター
- ・PC（画面投影・共有用）
- ・ビデオカメラ・三脚
- ・スマホ端末

人数

センター支援者全員（可能な限り）

実施：1日（90分）想定

- ① 教材についての確認
- ② 講師役によるスマホ教室の一部試行実施
- ③ 利用者向けのメディアリテラシーに関する内容
+ 支援者向けのメディアリテラシー部分の説明

事後：実施後1週間～

アンケート・分析

- ・試行実施の振り返りとして、参加者へアンケートをとる
（話し方や、デジタルに関する用語の使用の有無など）
- ・アンケート結果から、各項目について分析し、全体へ共有

実績（令和3年度1月26日／オンライン）

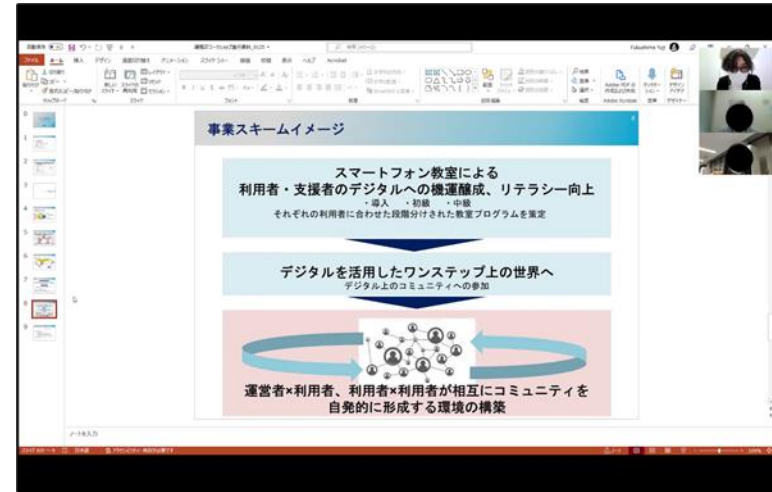
内容

- ・教材を使用したのグループワーク
- ・メディアリテラシーについて

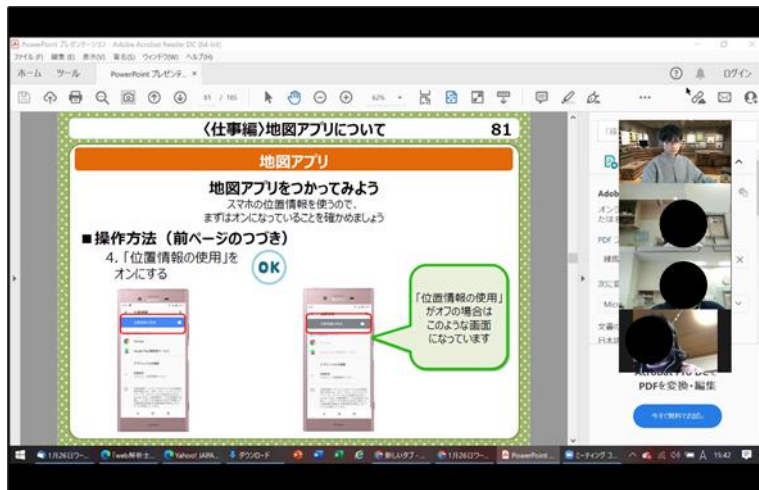
所感

- ・12月に実施したスマホ教室テスト試行の振り返りから、センター職員のリテラシーの向上を目的とした講演を行なった結果、センター職員含め参加者は時にうなずくなどして、意欲的に聴講していた
- ・テスト試行したFacebookの投稿動画を共有し、SNSを利用していないセンター職員の方にもわかりやすく「コミュニティ運用」についてイメージを伝えることができた
- ・グループワークの際、時間の関係でスマートフォンを触れる時間が少なかったため、グループによっては実践的な部分での確認が不足した
- ・概ね時間通りの進行ではあったが、最終の確認部分で延長し、終了時刻が遅れてしまった

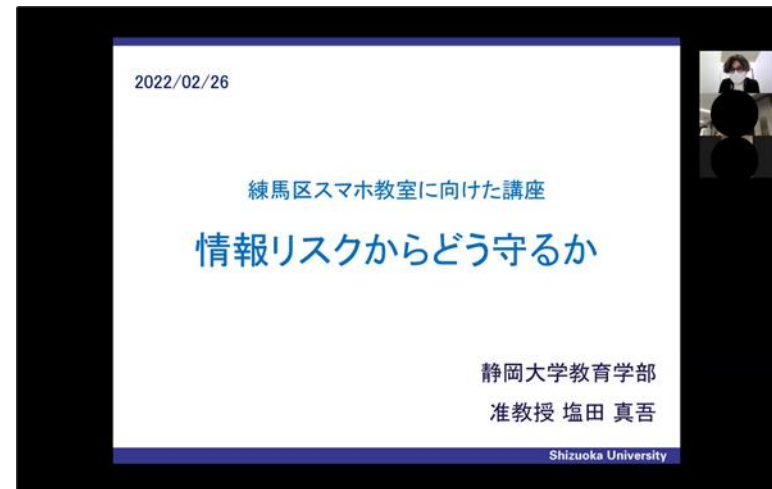
当日の様様



・本事業についての説明



・教材を使用したのグループワーク
(スマホ教室のデモンストレーション)



・静岡大学 塩田氏の講演

実施に向けてのポイント

準備

- ・ビデオカメラ等の収録機材を用意し、会議の内容を録画しておく、後から発言を見直すことができるのでよい。
- ※オンライン実施であれば、Zoomのレコーディング機能等でも代用可

資料

- ・教材はなるべく級数の大きな文字及び鮮明な画像で作成し、文章についても極力簡潔に記載する
- ・実施前に教材を予め支援者にご確認頂き、事前に可能な限り修正を行う
- ・教材は膨大なページ数の為、スマホ教室実施の際は、要望が多い項目に絞る

実施に向けてのポイント

進行

- ・支援者の方に教室の流れや内容をイメージしてもらい、利用者向けスマホ教室の際の現場でのフォローをスムーズに行なってもらうためにも、利用者向けスマホ教室と同じスピードでの進行が望ましい
- ・利用者に対するセンターのデジタル活用支援の在り方の意思統一とするため、メディアリテラシー部分は全職員の受講が望ましい
- ・スマホ教室の試行でグループ分けを行い、グループごとに別の内容を行うことで、教材や講義の内容について、より多くのフィードバックを抽出できるようにする
- ・グループへの参加者の割り振りを予め行う、フィードバックは事後アンケートにて抽出するなどして、スマホ教室の試行や講演に少しでも多くの時間を割けるようにする

目的

- ・オンラインコミュニケーションの普及啓発の一環として、ツールのひとつであるスマホの使用方法等に関する教室を実施
- ・スマホの利用を通して、まずは楽しさや便利さを体感してもらう
- ・オンラインコミュニケーションを利用する上で、トラブル回避の為にメディアリテラシーの啓発を併せて行う

準備：4週間～（資料作成…2週間、資料修正・実施内容決定等…2週間）

場所

- ・リアル実施であれば、時間や場所を参加者へ案内
- ・オンライン実施であれば、使用するツールを決定し、実施用URLを共有

資料

- ・利用者向けスマホ教室で利用する教材

その他

- ・オンラインにて実施する場合は、事前に参加者が使用するスマホ端末及び、出力した教材を予めセンター宛てに配送（前日着想定）

準備

機材

- ・プロジェクター
- ・PC（画面投影・共有用、予備用）
- ・ビデオカメラ・三脚
- ・スマホ端末（貸し出し用、画面共有用）

人数（想定）

講師役：1名

利用者フォロー：利用者2名につき1名

※状況に応じて変動

実施：1日（60分）想定

- ①スマホ体験（抜粋内容）
- ②数種類のSNSの紹介
- ③メディアリテラシー

事後：実施後1週間～

アンケート・分析

- ・利用者向けにアンケートを配布
- ・主催者・支援者向けに振り返りシートの配布及び振り返り会の実施

実績：（令和3年度2月16日／オンライン）

- ・中村橋福祉ケアセンター（心身障害者福祉センター）：6名参加

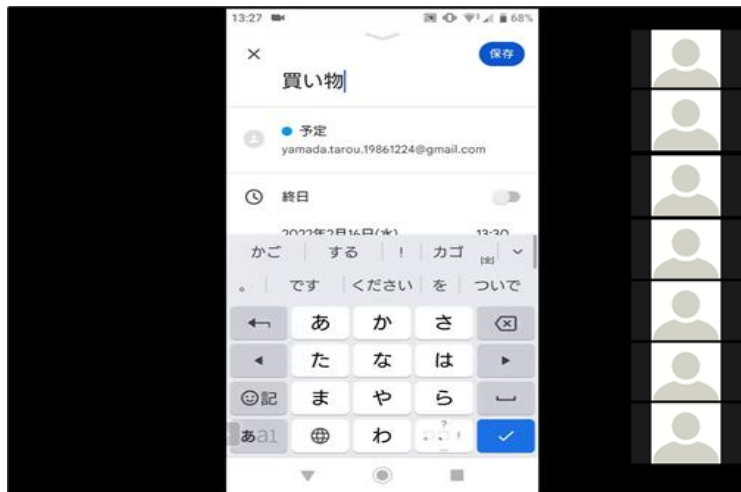
内容

- ・2グループに分かれてのグループワーク（スマホ及びアプリの基本操作等）
- ・コミュニティの紹介（Facebook）
- ・「スマホを正しく使うには」（利用者のリテラシーアップ講座）

所感

- ・スマホ端末を使用しての実践では、都度講師より「できましたか？」と利用者へお声がけしていたが、利用者によっては急かされていると感じる方もいらっしゃる可能性がある為、途中から支援者の方から支援者の方へ呼びかける形へ変更した。
- ・「スマホを正しく使うには」では、テキストに記載されている内容を全て説明したが、長くなってしまいう為、説明部分を絞って、その分をスマホ端末を使用しての実践の時間に充てる（または、スマホ端末を使用しての実践で押した時間を巻き取る）等の時間配分が必要かと思われる。
- ・利用者が参加しての初めての実践の教室ではあったが、最後に笑顔で手を振る利用者があるなど、概ね好評で終了することが出来た。

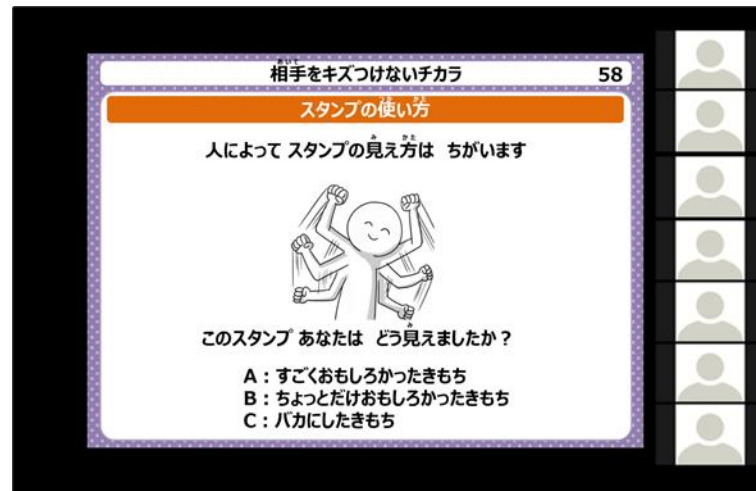
当日の様様



・2グループに分かれてのグループワーク



・コミュニティ (Facebook) の紹介



・「スマホを正しく使うには」

実績（令和3年度2月19日／オンライン）

- ・光が丘障害者地域生活支援センターすてっぷ：5名参加
- ・石神井障害者地域生活支援センターういんぐ：4名参加

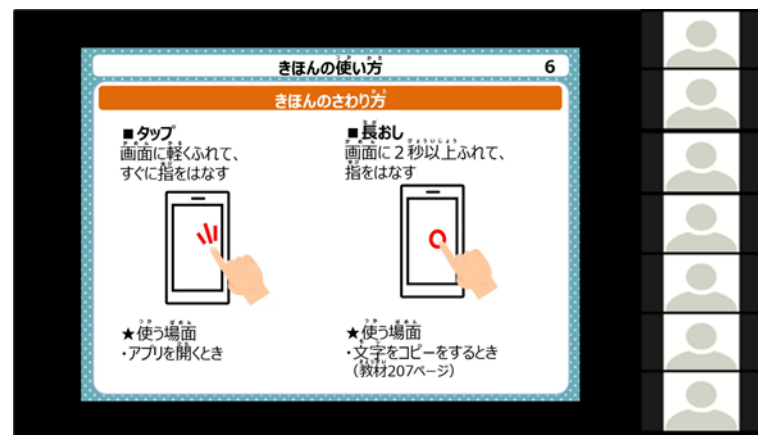
内容

- ・スマホ及びアプリの基本操作等の講習
- ※中村橋福祉ケアセンターで好評だったスケジュールアプリ等の講習を踏襲
- ・コミュニティの紹介（ういんぐ運営団体のFacebook紹介含む）
- ・「スマホを正しく使うには」（利用者のリテラシーアップ講座）

所感

- ・スマホを使用しての実践では、スムーズに進められる方と手間取る方との差があり、スムーズに進められた方にはお待ち頂く時間が出来てしまった為、以後はスムーズに進めて待っている方には、講習中の内容で、自主的に反復の実践を頂くことが望ましいかと思われる。
- ・時間が押した為、途中で不明点の質疑応答をほとんど行うことが出来なかった為、今後の講習の時間配分及び内容の再検討も必要かと思われる。

当日の様様



・スマホ、アプリの操作方法の講習



・コミュニティの紹介
(ういんぐ運営団体のFacebook紹介等)



・「スマホを正しく使うには」

実績（令和3年度2月19日／オンライン）

- ・大泉障害者地域生活支援センターさくら：2名参加
- ・豊玉障害者地域生活支援センターきらら：5名参加

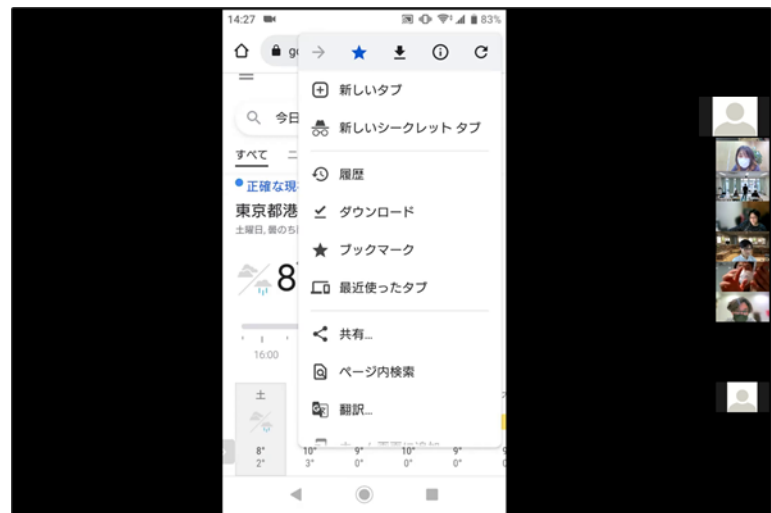
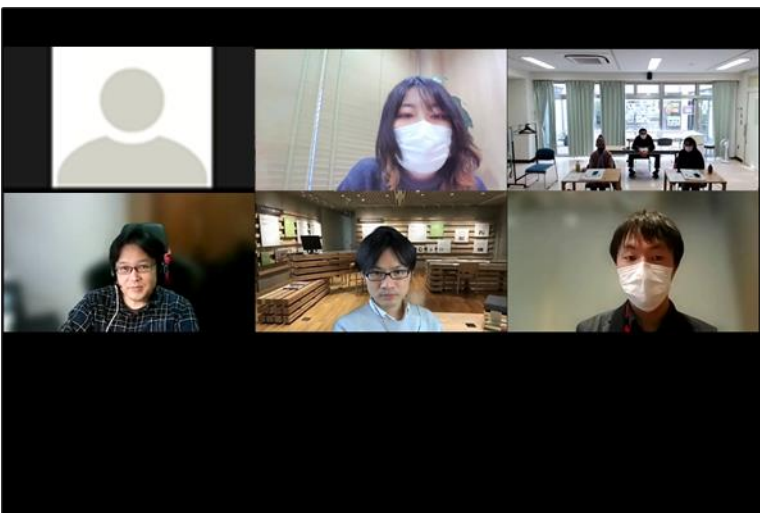
内容

- ・スマホ及びアプリの基本操作等の講習
- ※中村橋福祉ケアセンターで好評だったスケジュールアプリ等の講習を踏襲
- ・コミュニティの紹介（大泉さくらのTwitter紹介含む）
- ・「スマホを正しく使うには」（利用者のリテラシーアップ講座）

所感

- ・教室途中で、講師の端末の通信が途切れたり、音声の不良のトラブルがあったが、都度バックアップ端末への速やかな切り替えや、運営スタッフのフォロー等により、極めて短い中断で教室を再開することが出来た。
- ・スマホを使用しない座学と使用する実践が教室中に混在していた為、若干混乱する利用者が見受けられた為、講師から「ここからスマホを置いて画面を見て下さい」等のお声がけが必要かと思われる。
- ・参加者個々の端末ではなく、会場の端末1台で俯瞰のカメラ映像だった為、利用者の表情等を把握するのが難しかった為、支援者に進行状況を共有頂きながら進行した。

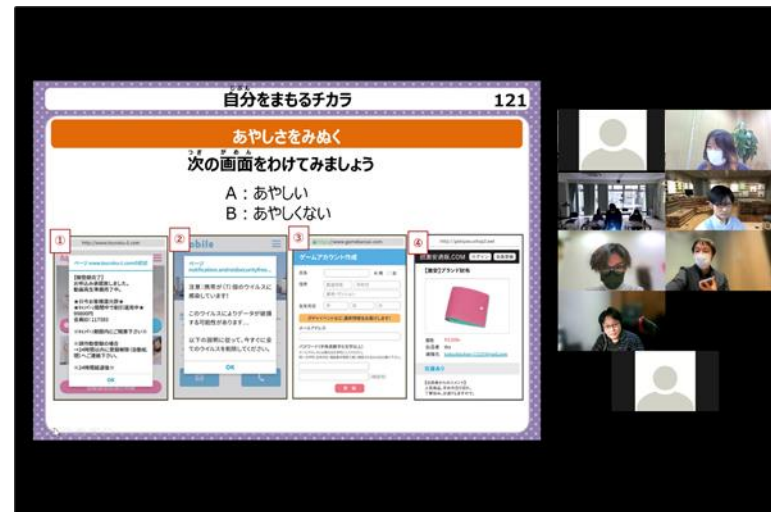
当日の様様



・スマホ、アプリの操作方法の講習



・コミュニティの紹介
(大泉さくらのTwitter紹介等)



・「スマホを正しく使うには」

実施に向けてのポイント

準備

- ・教材のスライドを投影する機材（プロジェクター等）を使用する場合は、講師がスマホの見本操作と教材スライドのめくりを同時に行なうのが難しい為、見本操作を行う場合は、教材のスライドから見本操作するスマホの画面に投影内容を変更する
- ・教室に使用するスマホは、Android想定（令和3年度はXperia XZ1を使用）
- ・教室に使用するスマホのレンタルはマストではないが、適宜支援者のフォローが必要

資料

- ・教室にて使用するスマホのOSに合わせて教材を作成する。
→操作の違いがある一部分では別のOS版教材を付録として配布
- ・利用者向けの出力は1スライドA4サイズ以上を推奨
※A4より大きいと物理的に扱いにくく、A4より小さいと文字や図が見にくい
- ・ページ数が膨大（令和3年度は、216ページ）な為、事前に利用者の関心が高い項目を支援者等へ聴取して授業を構成していくなど、パッケージ化が必要
※集中力の面から1時間での組み立て推奨

実施に向けてのポイント

進行

- ・スマホ教室のオンライン実施という体験を通して、デジタルを強く感じてくださった方が多かったようだったが、画面上でのコミュニケーションに慣れていない方が多数なので、講義の冒頭で「このように頭の上で○を作って伝えてください」等アナウンスする
- ・オンライン実施では、スマホ体験中の個別の進捗状況などはわかりにくいいため、現地の支援者に随時声をかけ、確認をとる
- ・オンラインで行う場合は、教室中に教材や画面共有をしている端末がトラブルにあっても問題なく進行できるよう、講師用のバックアップ端末でのスタンバイが必要
- ・実施の際は、教材の内容を全て行わずに、重複になる部分や優先度の低い部分は割愛し、時間調整を行う
- ・利用者に楽しんでもらう事も考慮し、スマホを使用した実践だけでなく、メディアリテラシーの講義の際にもクイズ形式（当てはまると思うものに挙手してもらう）等、なるべく説明する時間を短くする配慮が必要
- ・「ここからはスマホで実践します」「ここからはスマホは机において画面を見て下さい」等、声掛けをしてメリハリをつけることによって、利用者が今どこを注視すれば良いのかがわかるように配慮する

実施に向けてのポイント

事後

- ・利用者向けアンケートは、スマホ教室の最後に復習を兼ね、その場でQRコードを読みこんでウェブ上で回答頂く
- ※入力が苦手な方・スマホをお持ちでない方向けに出力したものをご用意

目的

- ・各センター利用者へのスマホ利用の訴求（「スマホを使って暮らしやすく」）
- ・利用者へのアンケートを訴求～回答集約し、今後のオンラインコミュニケーションの普及啓発支援へつなげる
- ・センター未参加者へ各センターの利用を訴求

準備：5週間～（掲載内容策定・デザイン…4週間、印刷…1週間）

QRコード

- ・デジタル活用支援のためのアンケート
- ※質問内容は変更可能

実績（令和3年度2月21日納品）

対象である5センターへ展開。
 仕掛け絵本作家である紙成鳴美氏による、遊び心あふれたリーフレットに仕上がった。
 内容としては、スマホを使ったらどんなことが起こるのか？をわかりやすいイラストで表し、「スマホを使って暮らしやすく」を率直に伝えている。
 また、裏面では各センターの紹介を入れており、利用前のお客様にもアプローチ



目的

- ・スマホ教室へ参加しなかった利用者の皆さまへ、一連の活動・思いを届ける
- ・事業概要やスマホ教室の様子をわかりやすく伝える

準備：7週間～（構成…4週間、撮影・編集…3週間）

内容

- ・練馬区を象徴するイメージを入れ、親しみやすい映像にする
- ・センター紹介またはセンターからのメッセージを入れ、事業について、利用者の皆様と一緒に頑張るという姿勢を伝える

編集

- ・字幕やナレーションをつけ、情報アクセシビリティに配慮


実績（令和3年度3月28日納品）

「映像イメージだけ」「文字情報だけ」ではなく、「映像イメージ×文字情報」によって構成。前半ではアイコンを使った事業背景や現状の課題を説明し、後半には具体的な取り組みや広く生活支援を行なうセンターを紹介することで、利用者を取り巻く環境を知ってもらう。

「スマホが使えたら」の具体的なイメージを掲載することで、リーフレットともリンクした、「スマホを使って暮らしやすく」の未来を伝える。また、一方的に利用者の手を引くのではなく、一緒に頑張るというメッセージを地元を象徴する映像と共にこめ、共感を呼ぶ構成とした。

さらにナレーションも加え、情報アクセシビリティにも配慮。

デジタルデバイド是正への
取り組みについて



デジタルデバイドとは
インターネットを使える人と
使えない人の間に生まれる、情報格差のこと



スマホを使うとどうなるの？



スマホで生活をもっとべんりに
例えば……
申し込み
日々のお買い物



スマホ教室




この事業とともに



地域生活を支援するセンター



地域生活を支援するセンター



中村橋福祉ケアセンター



練馬区では地域の中で自立して
暮らし続けることができるよう
各センターで相談や支援を行っています。



目的

- ・対面以外でのコミュニケーション手段を増やし、コミュニティを活性化させる

準備：7週間～（情報収集・決定…3週間、運営体制の確認…1週間、試行3週間）

媒体

- ・情報収集の際に得た利用者の声や抽出した課題、発信したい情報に対して適切なものを選ぶ ※比較表参考（42～44ページ）

必要なもの

- ・スマートフォンまたはパソコンなど、SNS投稿の出来る機器
- ・アカウント制作のためのメールアドレスや電話番号（サービスによる）

実施

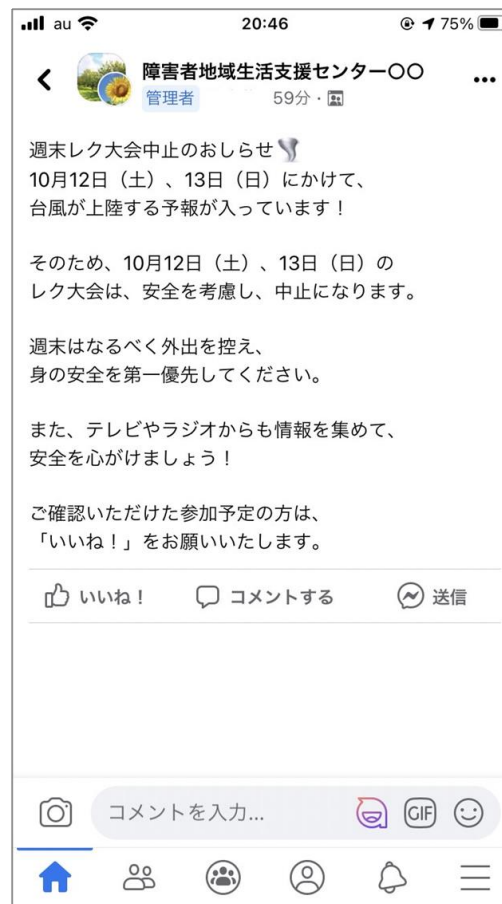
- ①説明会（利用者のSNS利用をサポート用）
- ②試行運用
 - ・利用ルールを策定（利用者は登録後1か月間後から投稿・発信が可能など）
 - ・利用中随時利用者へヒアリング等を行ない、ルールや投稿内容等を調整

人数（想定）

- ・アカウント管理者 2 名
- ・利用者のサポートができる者 2 名

Facebook概要

匿名性	非匿名
投稿	写真・動画、テキスト、リンク
メッセージ	【メッセージ】 友達・友達じゃない人に 送信可能
公開範囲	誰にでも公開または 友達または友達の友達 (グループであれば 参加している友達のみ)



Twitter概要

匿名性	匿名
投稿	写真・動画、テキスト、リンク
メッセージ	【ダイレクトメッセージ】 フォロワー、 非フォロワーに送信可能
公開範囲	誰にでも公開 またはフォロワーのみ



実績①（利用者へ向け、Facebookグループをテストで開設）

導入の経緯

- ・課題、要望：

安全性の高いものを使いたい、非公開の場でコミュニケーションを取りたい、さまざまな使い方を検討したい

- ・フェイスブックを選んだ理由：

投稿の範囲や友達申請を詳細に設定ができる、非公開グループを作ったうえでグループ内の管理が可能、メッセージ機能やビデオ通話機能もある

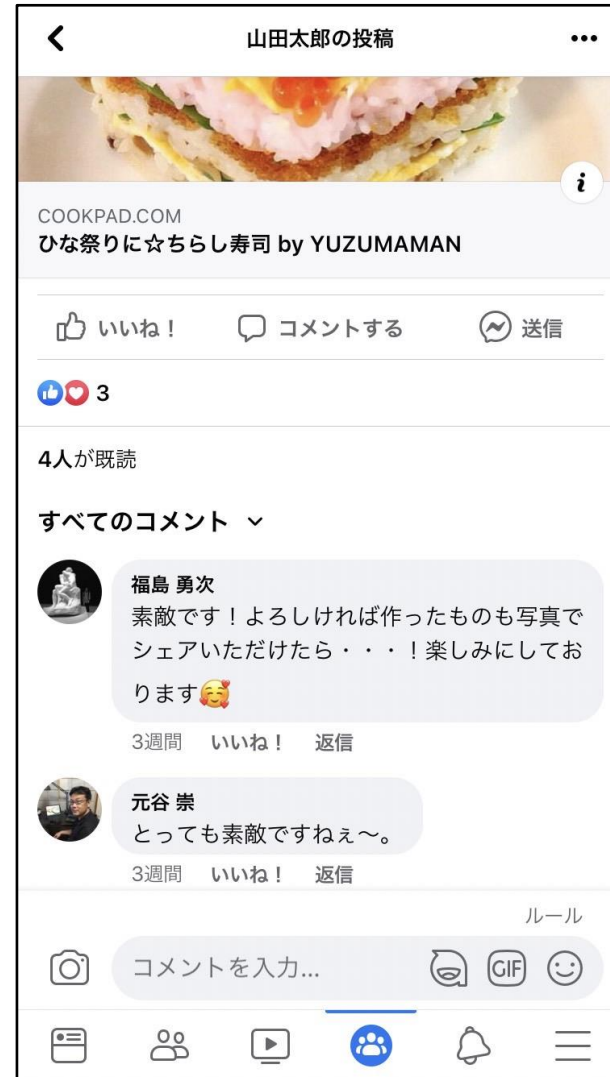
進め方

- ・説明会：スマホ画面を共有し、テスト投稿などを見せて利用イメージを伝える。管理側（友達の申請の設定、グループの設定、アカウントの運用について）と利用者側（投稿やコメントなどのできること）の使い方の概要説明

- ・体験会：アカウントを貸し出し、テストグループ内で投稿やいいねなどを行なってもらう。また、アカウントを準備してもらい、グループ管理者としての設定などを一緒に行なう

- ・テスト試行：10日間、職員内でのグループ運用を行なう。自由に投稿やコメントをしてもらい、慣れてもらう。その後、利用者のうちもともとアカウントをお持ちの方や強く関心を抱いている方に参加いただく。

Facebookグループの様様



実施に向けてのポイント

事前準備

- ・非公開グループであれば外部に発信されないため、操作や画面に慣れるためにもさまざまな機能を触ってみる
- ・体験の際やはじめてFacebookを利用する方へどんなグループか示すために、事前にさまざまな投稿やコメントをしておく

体験期間

- ・非公開グループと通常の投稿の違いを説明し、公開される範囲などをしっかりと認識してもらう
- ・センター側はガイドに沿って話を進めつつ、利用者はスマホ画面に集中できるように、画面共有等をしながら進行する（教材は帰宅後などの補助用とする）

実績②（既存Twitterの活性化）

導入の経緯

- ・課題、要望：
Twitterは導入済みだが、一部の方にしか届いていない。そもそも、Twitterをやっていることが知られているかわからない。

提案内容

Twitterを周知するため、ポスターとリーフレットを制作。また、投稿内容の精査のため、フォロワーの反応等を計測し効果測定のできるツールを導入。

- ・卓上POP：さくら公式Twitterを周知するメッセージと、アカウントのページのQRコードをメインに掲載
- ・リーフレット：フォローした際にわかる情報や、簡単なフォローの手順を図化し掲載
- ・アナリティクス：運用マニュアルとマネジメントシートを導入し、分析を補助

制作物について

■ポスター（A6・A4・A3）

おいずみ こうしき

大泉さくら公式Twitter

＼ぜひフォローしてください！／



今日のオープンスペースの
利用時間

楽しいイベントの
おしらせ



スマホで
このQRコードを
読みこんでね！

■チラシ（A4）

おいずみ こうしき

大泉さくら公式Twitter

＼フォローしよう！／



フォローしたら
どうなるの??

イベントやオープンスペースの
利用時間など、かんたんに知ることが
できてべんりです！

① スマホでQRコードをよみこむ



② フォローをおして完了！

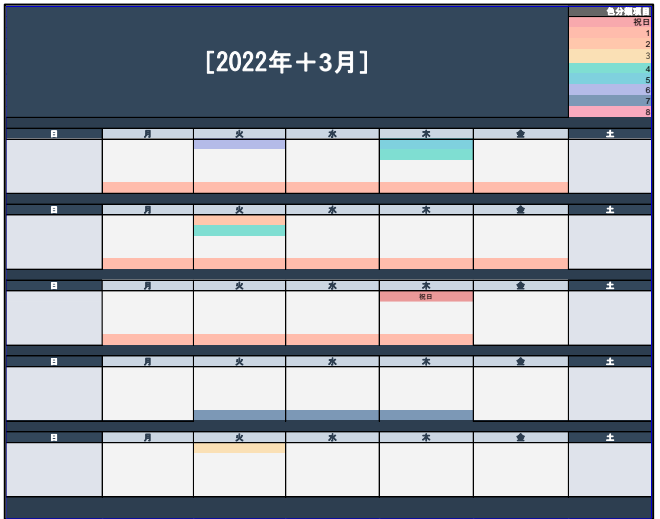


フォローするためにはTwitterのアカウントが必要です。
くわしく知りたい人は職員に連絡してください。

アナリティクスについて

2022年●月度 投稿管理											
曜日	日付	時間	ツイート	リンク	種別	画像	文字数	インプレッション	いいね	リツイート	新しいフォロワー
第1週											
月曜日											
	2022/3/7	12:00:00	本文	ある場合	月報	画像ファイル名	2				
							0				
火曜日											
							0				
水曜日											
							0				
木曜日											
							0				
金曜日											
							0				
土曜日											
							0				
日曜日											
							0				
								0	0	0	0

種別	タイトル	リンク	興味を引く抜粋	画像
お得情報	スマホアプリ○○の紹介	https://xxxxxxxxxxxxxxxx.com		



目的

- ・データを収集し分析することで、サービスの質を向上させ、各内容を最適化するため

情報収集

Googleフォーム（アンケート）

- ・Googleアカウントがあれば作成可能。回答者はGoogleアカウントがなくても回答可能
- ・回答は自動的に収集され、フォーム内で集計される。リアルタイムの回答状況、割合等をグラフで確認することも可能
- ・クラウド上で管理されているため、複数の端末から同時にアクセスが可能
- ・解答形式には複数の選択肢の中から1つを選ぶ「ラジオボタン」、選択肢の中から複数選べるタイプ「チェックボックス」のほか、「記述式」や「プルダウン」がある

データ分析

Microsoft Power BI

- ・プログラミングの知識がなくても使えるように設計されている分析ツール
- ・各種データ処理（抽出、変換、統合など）、視覚化された分かりやすいレポートの作成、作成したレポートを組織内の人と共有、作成したレポートを定期的に自動更新が可能

免責・他社所有商標に関する表示

< 免責 >

この手引は、令和 3(2021) 年 12 月現在の情報を元に作成しました。今後の仕様変更やお使いの環境等によって記載されている内容が実際と異なる場合があります。記載されている内容は、情報の提供のみを目的としています。この手引の運用については、必ずご自身の責任と判断によって行ってください。また、事例として紹介するサービスや製品は一例です。各都道府県・自治体の方針に従い、使用するものを決定してください。これらの情報の運用の結果 については、発行者はいかなる責任も負いかねます。あらかじめご了承ください。

< 商標 >

・Xperiaは、ソニーモバイルコミュニケーションズ株式会社の商標または登録商標です。

・Apple、Appleのロゴ、iPhone、iTunes、Retina、Safari、Touch IDは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。iPhoneの商標は、アイホン株式会社のライセンスにもとづき使用されています。App Store、AppleCare、iCloud、iTunes Storeは、Apple Inc.のサービスマークです。TM and © 2018 Apple Inc. All rights reserved.

・Google および Google ロゴ および G ロゴ、Android および Android ロゴ、Google Playおよび Google Play ロゴ、Gmail および Gmail ロゴ、YouTube および YouTube ロゴ、Googleマップおよび Google マップロゴ、Google カレンダー および Google カレンダー ロゴ、Google Chrome、Google Chrome ロゴ、Google PhotosおよびGoogle Photosロゴ、Google Keep および Google Keep ロゴは、Google LLC の商標または登録商標です。

・LINEおよびLINEロゴは、LINE株式会社の商標または登録商標です。

・Twitter および Twitter ロゴ、Twitter の青い鳥は、アメリカ合衆国また他国々におけるTwitter, Inc.の登録商標です。

・Facebook および Facebookロゴ、InstagramおよびInstagramロゴはMeta Platforms, Inc.の商標または登録商標です。

・Zoomの名称、ロゴは、Zoom Video Communications, Inc.の米国および日本を含むその他の国における商標または登録商標です。

その他、本文中のサービス名、商品名などは、それぞれの会社の商標、登録商標、商品名です。

なお、本文中では™マーク、® マークは明記していません。